

MTG-NANO  
取扱説明書

## - 目次 -

### MTG-NANO 取扱説明

#### 1. ご使用の前に.....4

1-1	製品の構成	4
1-2	各部名称	4
1-3	メインメニュー画面の説明	5

#### 2. ホームアプリ概要.....6

2-1	機能	6
-----	----	---

#### 3. 各種設定 (ユーティリティ) .....6

3-1	接続設定 (Bluetooth による NANO-BT の登録)	6
3-2	接続設定 (Bluetooth によるプリンタ TP-SIIMP-B30 の登録)	7
3-3	自社情報設定	10
3-4	証明書送付メール設定	10
3-5	バックアップ / インポート	11
3-6	規定アプリ設定 / スクリーンショット設定	12

#### 4. 診断アプリの概要 .....13

4-1	機能	13
-----	----	----

#### 5. 車両診断 .....13

5-1	車両への接続	13
5-2	車両情報登録	13
5-3	診断メニューの選択	19
5-4	故障コードの読取	20
5-5	故障コードの消去	22
5-6	故障コードの保存	23
5-7	フリーズフレームデータ	24
5-8	DTC ヘルプ機能	25
5-9	データモニタ	25
5-10	カスタマイズ	27
5-11	作業サポート	28
5-12	アクティブテスト	29
5-13	保存データ履歴表示と削除	30
5-14	I/F設定	31
5-15	I/F情報	31

#### 6. 特殊機能 .....32

6-1	特殊機能項目	32
-----	--------	----

#### 7. ユーザガイド .....32

7-1	ユーザガイド項目	32
-----	----------	----

#### 8. ADAS CALIBRATION .....33

8-1	エーミング	33
8-2	エーミング証明書の編集	35
8-3	保存データ履歴表示と削除	35

#### 9. HV/PHV/EV .....36

9-1	HV/PHV/EV	36
9-2	証明書の作成	37
9-3	保存データ履歴表示と削除	37

#### 10. EDR .....38

10-1	EDR	38
10-2	証明書の作成	39
10-3	保存データ履歴表示と削除	39

#### 11. 更新 .....40

11-1	I/Fとアプリの更新	40
------	------------	----

#### 12. 保証 .....42

## 安全にお使いいただくために必ずお読みください。

取扱説明書には、お使いになる人や他の人への危害と財産の損害を未然に防ぎ、安全に正しくお使いいただくために重要な内容を記載しています。本製品をより効率的にお使いいただくために、取扱説明書の内容についてよくご理解し記載事項をお守りください。

また、本製品を十分に活用していただくためには、車両コンピュータシステムを熟知されている必要があります。本製品を使用する際に修理書を参照せず、無理な使い方や車両を破損させた場合、正しい使用方法以外で発生した損害については、一切の責任を負いかねます。

## 使用上のご注意および禁止事項

- 診断ケーブルを車両から着脱する際は、車両のイグニッションスイッチがOFFであることを必ず確認してください。イグニッションスイッチがONの位置で脱着すると、本体やプログラムを破壊する場合があります。
- ケーブルを無理に引っ張らないでください。
- 車両の診断コネクタにケーブルがしっかりと接続されていることを確かめてから、本製品をお使いください。
- 付属のシガー電源ケーブル以外を本体側電源コネクタに差し込まないでください。
- 別の製品のケーブルを使用しないでください。
- 本体のコネクタ部に異物を入れないでください。
- 本体およびケーブル、アダプタ等の金属端子部に直接手を触れないでください。汚れによる接触不良や静電気による破壊等が発生する場合があります。
- 端子部分にエンジンオイルなどを付着させないでください。接触不良の原因となります。
- エンジンオイル、ガソリン、不凍液およびバッテリー液を本体に付着させないでください。
- アルコールを含む液体で本製品をふかないでください。割れの原因となります。
- 気温 0° C ~ 50° C、湿度 80%以下の環境でご使用ください。
- ケーブルの被覆が破れた場合は、ショートのおそれがありますのでご使用を中止してください。
- 本体およびケーブル等を水に濡らしたり、衝撃等を与えないでください。
- 本体は防水仕様ではありませんので水に濡らさないでください。
- ぬれた手で、本製品に触れないでください。
- 運転者は、運転中に本製品を操作しないでください。
- 電源電圧は DC10V 以上 32V 以下でお使いください。
- 人的な傷害を未然に防ぐために、必ずパーキング・ブレーキを確実にかけ、また車輪止めを行い、車両の点検・修理を行ってください。
- 車庫などの周囲が囲まれている空間でエンジンを作動させたまま点検を行う際には、必ず十分な換気を行ってください。排気ガス中には意識不明状態や死亡に至らせる恐れのある無色無臭の非常に危険な一酸化炭素が含まれております。排気ガスは絶対に吸い込まないようにしてください。
- 本製品を分解・改造しないでください。

## 保管場所について下記の場所には保管しないでください。

- 水のかかるところ
- 強い衝撃が加わるところ
- 気温 -20° C 以下 70° C 以上、湿度80% 以上のところ
- 結露のあるところ
- 直射日光があたるところや炎天下の車室内など高温になるところ

## 1. ご使用前に

### 1-1 ご使用前に

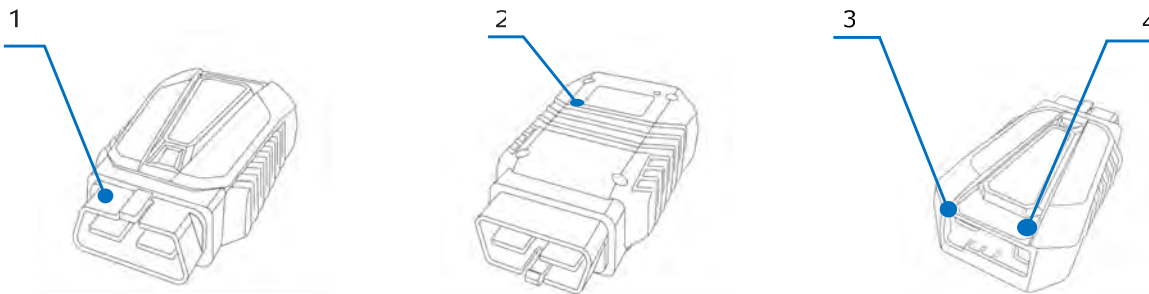
#### 1-1 製品の構成

※リスト内の製品は予告なく変更する場合があります。 予めご了承ください。

製品名	入数	製品名	入数	製品名	入数
インターフェイス 本体 	1	USB Type C ケーブル 	1		

### 1-2 各部名称

#### ● インターフェイス



名称	内容
1. OBD II コネクタ	OBD II コネクタの接続口となります。
2. 銘板ラベル	本体のシリアル番号が記載されています。
3. USB Type Cポート	USB Type C ケーブルでパソコンと接続します。
4. ステータスランプ	車両 DLC に接続すると青色に点灯。その後緑⇄青色の交互に点灯します。(通信待機状態)

### 1-3 メインメニュー画面

(1)メインメニュー画面は以下2つの画面で構成されています。(横にスライドさせることで画面が切り替わります)



① 車両診断	各種診断を行います。
② 特殊機能	メンテナンスモード、DPF強制再生、エーミング、簡易バッテリー計測を行います。
③ ADAS	エーミング証明書の発行を行います。
④ HV/PHV/EV	電気自動車・ハイブリッド車の駆動用バッテリー診断を行います。
⑤ 更新	I/Fボックスと接続してソフトウェアの更新を行います。
⑥ 保存データ	保存した故障コードやデータモニタ、各種証明書の表示などを行うことが出来ます。
⑦ EDR	イベントデータレコーダー(EDR)の読込が行えます。
⑧ ユーザガイド	各種取扱い説明書などを表示します。
⑨ ユーティリティ	自社情報設定や接続設定など各種設定を行います。

(2)ヘッダー情報



① I/F有効期限	I/Fの有効期限を表示します。 ユーティリティのI/Fボックス設定で「設定済」のI/Fの有効期限を表示します。 (メインメニュー画面のみ表示)
② スクリーンショット	タップすることで画面のスクリーンショットが行えます。
③ I/F接続状態	I/Fの接続状態が表示されます。
④ バッテリー電圧	車両バッテリー電圧の数値が表示されます。

## 2. ホームアプリの概要

### 2-1 機能

本アプリケーションでは、車両情報の（登録・削除）や保存した診断情報の再表示、また各種設定などを行うことができます。

## 3. 各種設定(ユーティリティ)

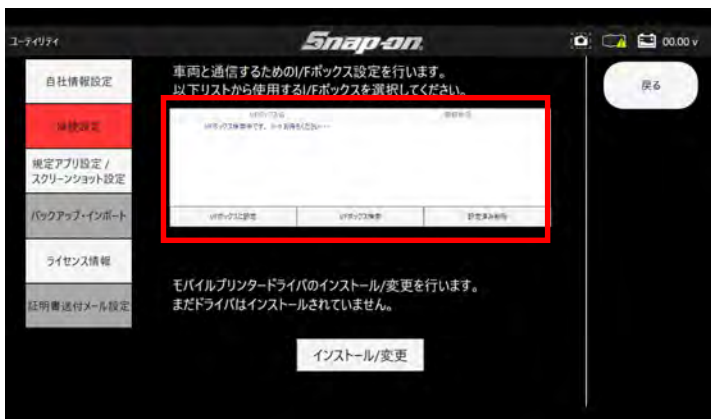
### 3-1 接続設定 (Bluetooth による NANO-BT の登録)

#### 3-1 各種設定

- (1) 車両のイグニッション SW が OFF の状態で車両診断コネクタに nanoWIN 本体（以下 I/F）を接続します。



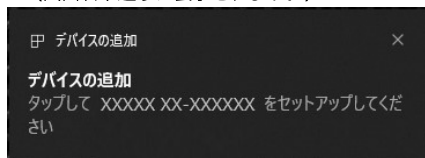
- (2) メインメニュー画面から「ユーティリティ」 - 「接続設定」 を選択します。  
(3) 自動的にI/Fボックスの検索が行われます。



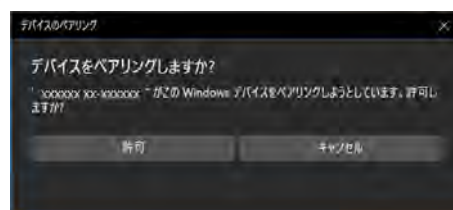
- (4) 「I/Fボックス名」 のリストに使用するデバイスがない場合には 「I/Fボックス検索」 ボタンをタップして再度検索を行ってください。  
(5) ご使用のデバイス（nanoWIN）が表示されたらデバイス名をタップし、「I/Fボックスに設定」 ボタンをタップして下さい。



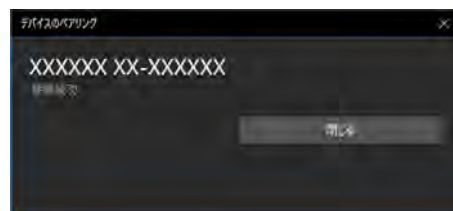
- (6) 初回ペアリング時のみWindowsから通知からのダイアログが表示されるため選択します。（画面右下辺りに表示されます。）



- (7) 許可を選択します。



- (8) 接続が成功すると「接続成功」と表示されるため、「閉じる」を選択します。



- (9) 該当のI/Fボックスの接続状況が「設定済」となりI/Fボックスの接続設定は完了となります。



## 3-2 接続設定 (Bluetooth によるプリンタ TP-SIIMP-B30 の登録)

### 3-2 接続設定

オプションのモバイルプリンタ (TP-SIIMP-B30) と Bluetooth 接続で簡易印刷が行えます。

※事前にタブレットの Bluetooth 機能は ON にしてください。

※ TP-SIIMP-B30 プリンタはオプション製品です。

(1) プリンタを接続モードにします。

- ① プリンタの電源ボタン (1) を長押しします。
- ② POWER ランプ (3) の緑色が点灯して
- ③ WIRELESS ランプ (2) の青色が点滅から 2 回点滅を繰り返すまで長押しします。
- ④ 青色ランプが 2 回点滅を繰り返し始めたらボタンから手を離します。(接続モード)



(2) 「ユーティリティ」 - 「接続設定」 を選択します。

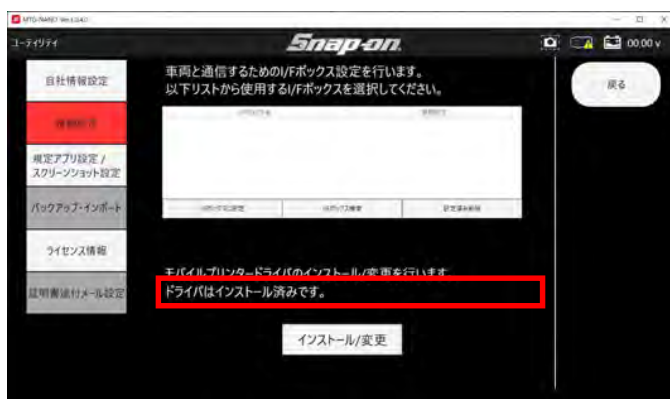
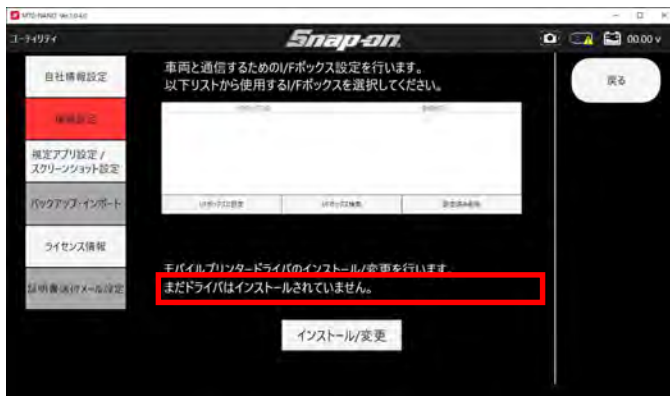
(3) プリンタのドライバがインストールされているか確認を行う。

「まだドライバはインストールされていません。」と表示されている場合

(4)の手順からドライバをインストールして下さい。

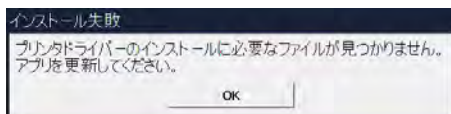
「ドライバはインストール済みです。」と表示されていて、

モバイルプリンタと接続が出来ない場合は(6)の手順を参照して下さい。

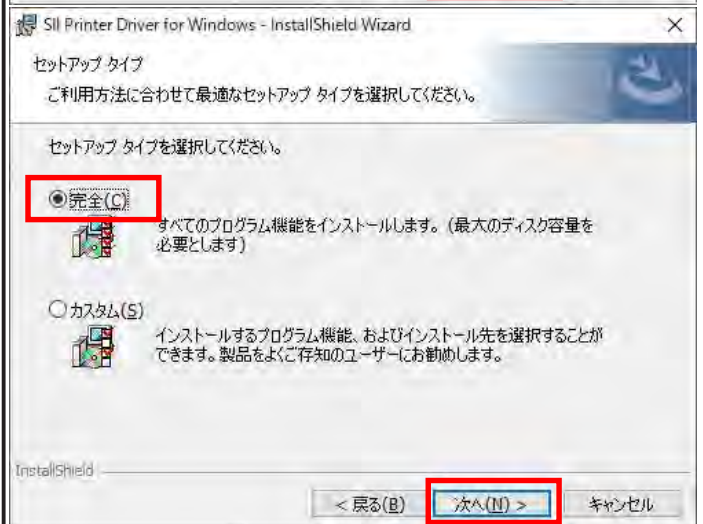
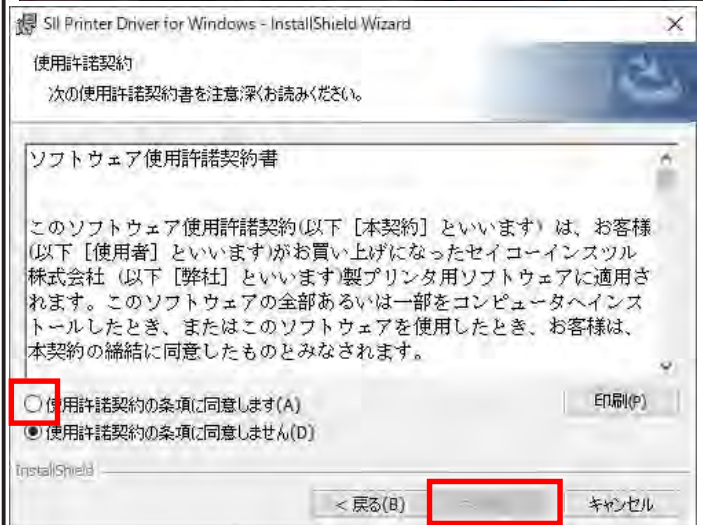
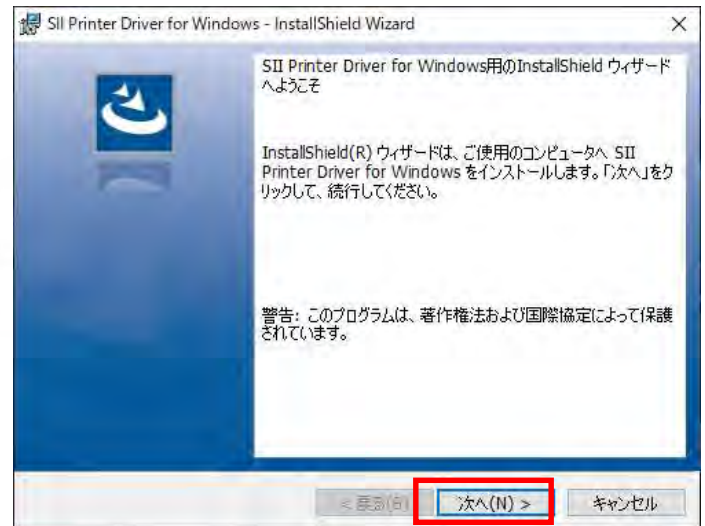


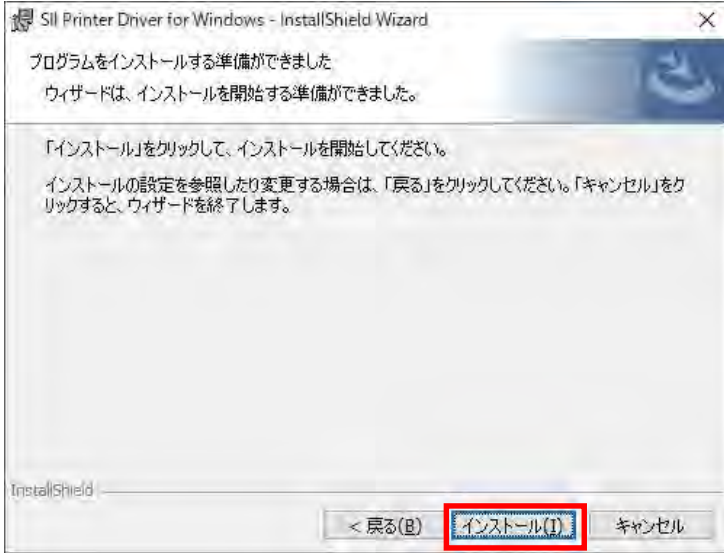
(4) 「インストール/変更」 ボタンを選択してドライバのインストールを行ってください。

下記画像が表示された場合は、アプリのアップデートを行ってください。



(5) ドライバのインストール実施。画面に従い選択を行ってください。





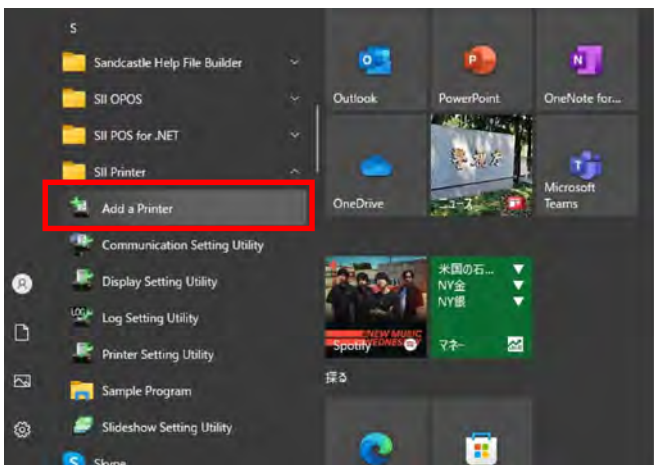
(6) モバイルプリンタとのペアリングを行う。

「プリンターの追加ウィザードを起動（USB接続では不要）」にチェックを入れ「完了ボタン」を選択する。

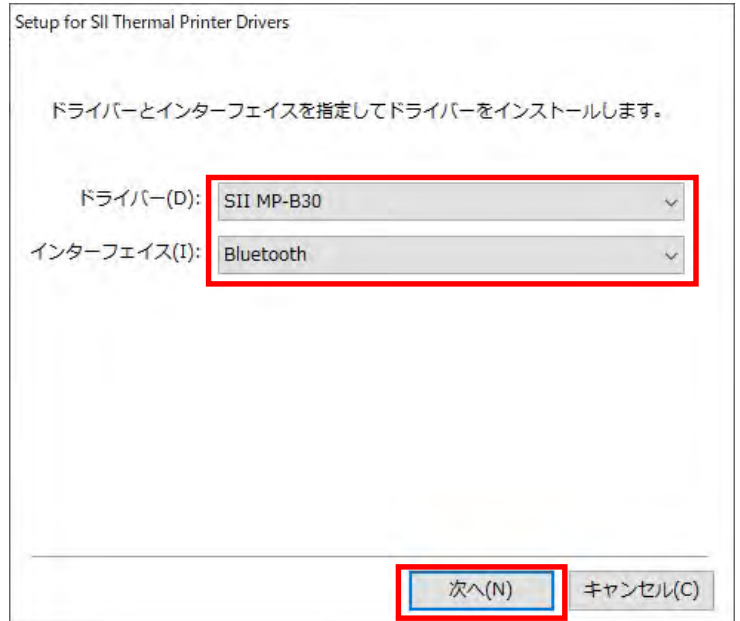


※チェックを選択し忘れた場合や、後からプリンタを設定する場合はスタートメニューから「SII Printer」内の「Add a Printer」を起動します。

(7) ペアリング設定



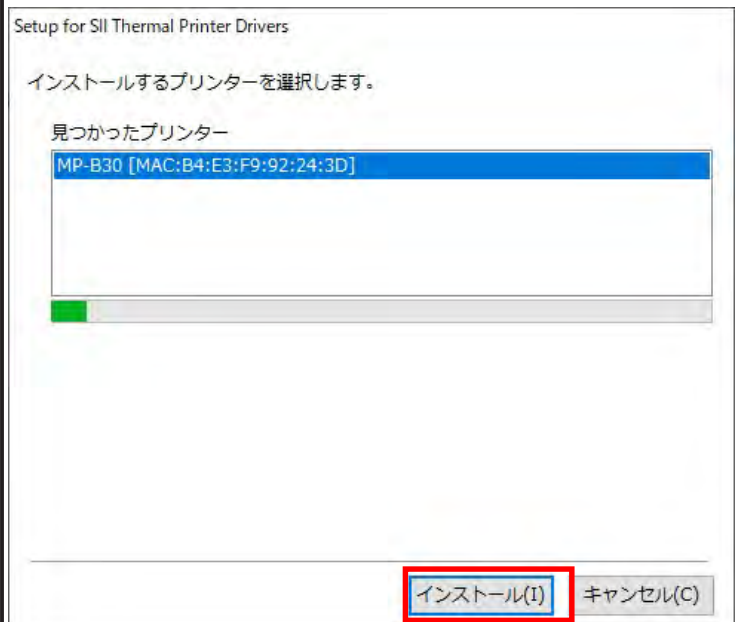
(7) ドライバーの項目から対象のプリンタ「SII MP-B30」、インターフェイスは「Bluetooth」を選択後に「次へ」を選択して下さい。



(8) モバイルプリンタの検索が行われます。

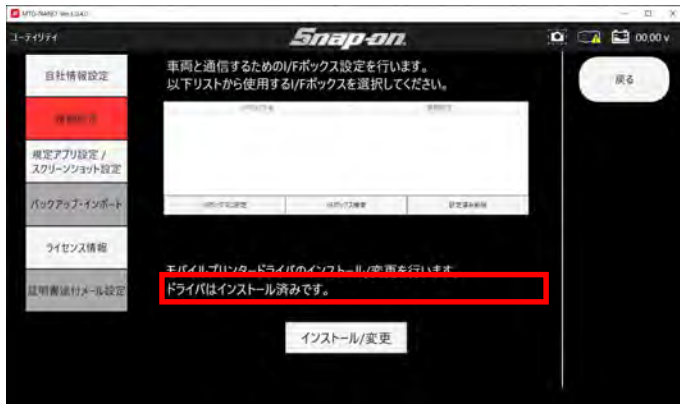
モバイルプリンタが見つかったら、機種名を選択し「インストール」を選択して下さい。

見つからない場合は、(1)の手順で行った接続モードにして再度行ってください。





(9) 「ドライバはインストール済みです。」と表示されていれば接続設定は完了となります。



(10) モバイルプリンタでの印刷時

データモニタや故障コード等でモバイルプリンタ印刷時に以下ダイアログが表示されます。

(8)で指定したモバイルプリンタが表示されているため、選択し「印刷」ボタンを選択するとモバイルプリンタで印刷が行われます。



### 3-3 自社情報設定

#### 3-3 自社情報設定

- (1) 「ユーティリティ」-「自社情報設定」を選択します。
- (2) 各入力フォームをタップして入力します。

会社情報設定	会社名	
登録設定	認証番号	
規定アプリ設定 / スクリーンショット設定	担当者名	
バックアップ/インポート	Web	
ライセンス情報	TEL	
	FAX	
証明書送付メール設定	郵便番号	
	住所	
	eMail	
	パスワード	

- (3) 入力後「確定」ボタンを選択し、「データ更新完了しました。」のメッセージが表示されれば登録完了です。

会社情報設定	会社名	株式会社 XXXXXXXX
登録設定	認証番号	
規定アプリ設定 / スクリーンショット設定	担当者名	
バックアップ/インポート	Web	
ライセンス情報	TEL	0123456789
	FAX	0123456789
証明書送付メール設定	郵便番号	111-1111
	住所	東京都品川区
	eMail	
	パスワード	

- (4) 各入力フォームの情報は各証明書の情報に反映されます。

### 3-4 証明書送付メール設定

#### 3-4 証明書送付メール

- (1) 「ユーティリティ」-「証明書送付メール設定」を選択します。
- (2) 各入力フォームをタップして入力します。

自社情報設定	メールアドレス1	
登録設定	メールアドレス2	
規定アプリ設定 / スクリーンショット設定	メールアドレス3	
バックアップ/インポート	メールアドレス4	
ライセンス情報	メールアドレス5	
証明書送付メール設定	メールアドレス6	

- (3) 入力後「確定」ボタンを選択し、「データ更新完了しました。」のメッセージが表示されれば登録完了です。

自社情報設定	メールアドレス1	xxxx@test.com
登録設定	メールアドレス2	
規定アプリ設定 / スクリーンショット設定	メールアドレス3	
バックアップ/インポート	メールアドレス4	
ライセンス情報	メールアドレス5	
証明書送付メール設定	メールアドレス6	

- (4) 証明書をPDFで送付する際にメール宛先が自動的に設定されます。メールアドレスが登録されていない場合は、証明書をメールで送付することが出来ません。

## 3-5 バックアップ / インポート

### 3-5 バックアップ / インポート

診断を行った車両や自社情報のバックアップおよびバックアップデータをインポートしてデータの復元が行えます。

#### 3-5-1 データのバックアップ (保存)

(1) 「ユーティリティ」 - 「バックアップ / インポート」 を選択します。



(2) 「バックアップ」 をタップします。

「バックアップ完了しました」 のメッセージが表示されればバックアップ完了です。



#### ● 3-5-2 データのインポート (復元)

(1) 「ユーティリティ」 - 「バックアップ / インポート」 を選択します。  
インポートしたい年月日時間の項目を選択して下さい。



(2) 確認メッセージが表示されます。

選択したデータが正しければ「OK」をタップします。



(3) 「インポート完了しました」が表示されれば復元の完了です。



## 3-6 規定アプリ設定 / スクリーンショット設定

### 3-6 規定アプリ設定 / スクリーンショット設定

証明書の印刷やメールのアプリ設定や、スクリーンショットの保存場所設定が行えます。

#### 3-6-1 規定アプリ設定

(1) 「ユーティリティ」 - 「規定アプリ設定 / スクリーンショット設定」 を選択します。



(2) 「既定のアプリ設定」 を選択します。

本アプリにおいてメールやWebブラウザー等は既定のアプリで設定されているアプリで表示を行います。変更したい場合はアプリを変更して下さい。



#### ● 3-6-2 スクリーンショット設定

(1) 「ユーティリティ」 - 「規定アプリ設定 / スクリーンショット設定」 を選択します。

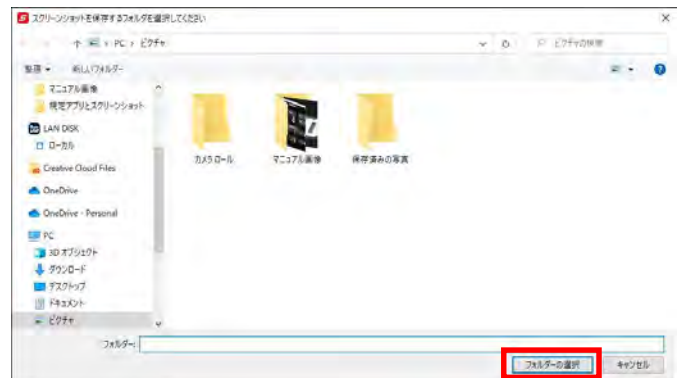
スクリーンショットの保存場所を変更した場合は「フォルダ選択」を選択して下さい。

デフォルトは「ピクチャ」フォルダに保存されます。



(2) 「フォルダ選択」を選択した場合は以下ダイアログが表示されます。

保存したいフォルダを選択し「フォルダの選択」を選択して下さい。



## 4. 診断アプリの概要

### 4-1 機能

本アプリケーションでは、車両と接続した I/F と通信することにより様々な車両診断を行うことができます。

車両診断は車両メーカーにより、サポートされた各システムのそれぞれの機能を選択することで現在の車両状態を診断することができます。

- ① 故障コードの読取 ② 故障コードの消去 ③ データモニタ ④ フリーズフレーム
- ⑤ アクティブテスト ⑥ 作業サポート ⑦ カスタマイズ

## 5. 車両診断

### 5-1 車両診断

#### 5-1 車両への接続

(1) 車両のイグニッション SW が OFF の状態で車両診断コネクタに I/F を接続します。



・ いすゞ・エルフなど一部車両では、車両側診断コネクタに電源供給されていない場合があります。その場合は付属の電源アダプタとシガーケーブルを I/F に接続して車両側シガーソケットから電源供給を行います。さらに、ワニ口アダプタを接続して車両側バッテリーから電源供給を行う事もできます。

#### 5-2 車両情報登録

診断を行う前に必要に応じて車両情報を登録します。

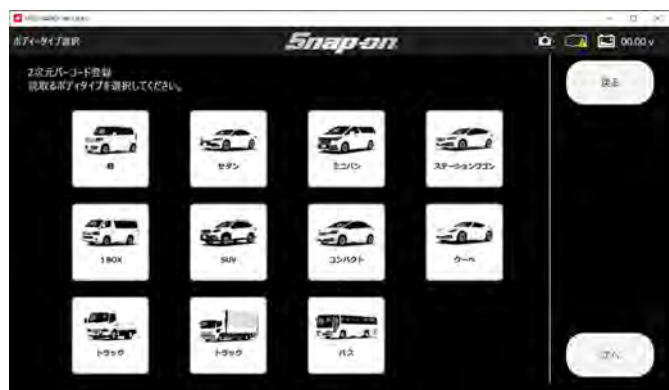
登録方法は、車検証の二次元バーコード読取りによる自動登録、手動による登録があります。また、車両情報を登録せず診断を行うことも可能です。但しその場合は車両診断履歴が保存されません。

- 5-2-1 自動車検査証の二次元バーコード読取りによる車両情報自動登録

(1) メインメニュー画面から「車両診断」-「二次元バーコード登録」を選択します。



(2) 対象の車両タイプを選択します。(証明書発行の際に使用されるアイコンとなります)



(3) 二次元バーコードを読取る機器を選択。



(4) カメラ選択時は、対象のカメラを選択し「普通自動車」又は「軽自動車」のボタンを選択して下さい。



①は対象のカメラ設定を行うプルダウンとなっています。

カメラが複数ある場合は選択して下さい。

普通自動車の場合。



軽自動車の場合



(5) 2次元バーコードの読み込みが完了すると、自動で車両情報登録画面に切替わります。



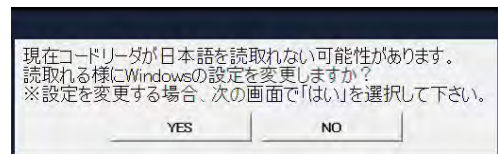
(6) (3)の手順で二次元バーコードリーダ選択時。

二次元バーコードリーダで画面の二次元バーコード読取を行ってください。



※以下メッセージウィンドウが表示された場合、QRコードリーダの読取において

正常に読取れない可能性があるため、「YES」を選択しWindowsの設定を自動で行います。



(7) 正常に読取れた場合は「普通車・トラック・バス」又は「軽自動車」を選択して下さい。



「普通車・トラック・バス」を選択した場合



「軽自動車」を選択した場合



(8) 二次元バーコードの読み込みが完了すると、自動で車両情報登録画面に切り替わります。(3) ICチップ読取画面表示。



● 5-2-2 自動車検査証の ICチップ読取りによる車両情報自動登録

(1) メインメニュー画面から「車両診断」-「ICチップ登録」を選択します。



(2) 対象の車両タイプを選択します。(証明書発行の際に使用されるアイコンとなります)



(3) ICチップ読取画面表示。



(4) ICチップ読取について。

本アプリにおいて、ICチップ車検証の読込自体出来ません。

「車検証閲覧アプリサイト」ボタンにて車検証閲覧アプリを

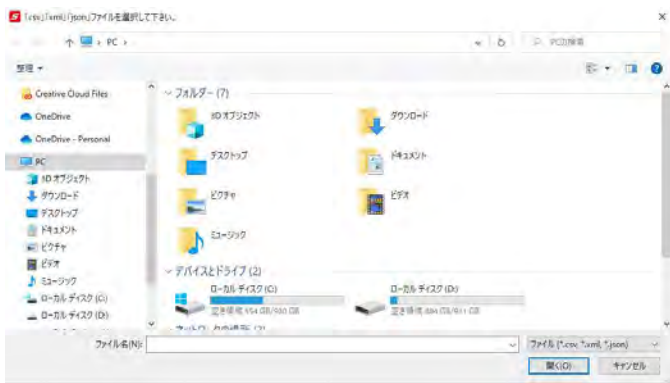
ダウンロードを行い、車検証閲覧アプリにおいてICチップの読取を行ってください。

読み取り結果を「csv」「json」「xml」のいずれかでファイル出力を行ってください。



(5) ICチップ読取結果ファイル読み込み

「ファイル読み込み」を選択し以下画面で対象のファイルを選択して下さい。



(6) ファイル読み込みが完了すると、自動で車両情報登録画面に切替わります





● 5-2-2 手動による車両情報自動登録

(6) 「手動登録」 を選択します。



(7) 対象の車両タイプを選択します。(証明書発行の際に使用されるアイコンとなります)



(8) 登録番号を入力エリアから選択します。

「使用の本拠の位置①」 - 「分類番号②」 - 「事業文字③」 - 「一連指定番号④」を順に入力すると自動で画面が切り替わります。

入力欄を選択することで、その入力画面に切替えることもできます。



(9) 入力完了したら「次へ」を選択します。



● 5-2-3 メーカー・車種の選択

(1) メーカーを選択します。



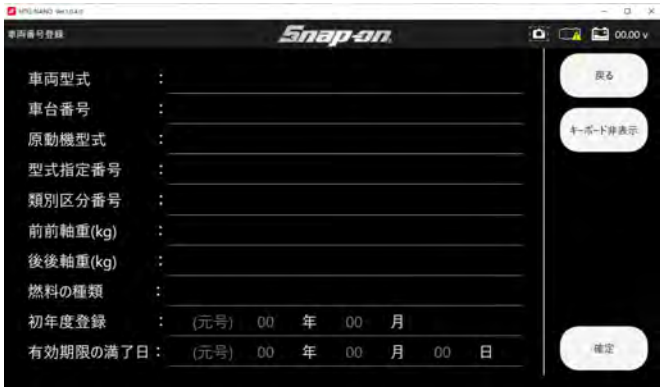
(2) 車種を選択します。

メーカー・車種の選択が完了したら「次へ」を選択します。



(3) 車両番号を入力します。

入力完了したら「確定」をタップします。



(4) 車両情報の登録が完了しました。



● 5-2-4 登録車両の削除

(1) 登録車両一覧から削除したい車両を選択します。  
(反転しているのが選択状態です。)



(2) 確認ダイアログが表示されます。

選択した車両情報に間違いがなければ「YES」を選択します。  
※削除を行った場合、その車両に関する履歴情報も削除されます。



(3) 選択した車両情報が削除されました。



## 5-3 診断メニューの選択

診断メニューからは以下の機能が行えます。

①	<b>保存データ履歴表示</b>	履歴一覧から保存データの表示を行います。
②	<b>履歴削除</b>	履歴から保存データの削除を行います。
③	<b>I/F設定</b>	I/Fボックスのブザー音のON/OFF設定を行います。
④	<b>I/F情報</b>	本体シリアル番号、OSバージョン、ダウンロード及び本体保証期間が表示されます。
⑤	<b>診断</b>	診断を行います。

### ● 5-3-1 診断から診断ソフトのメインメニュー表示

※以下からはトヨタソフトを例に説明します。

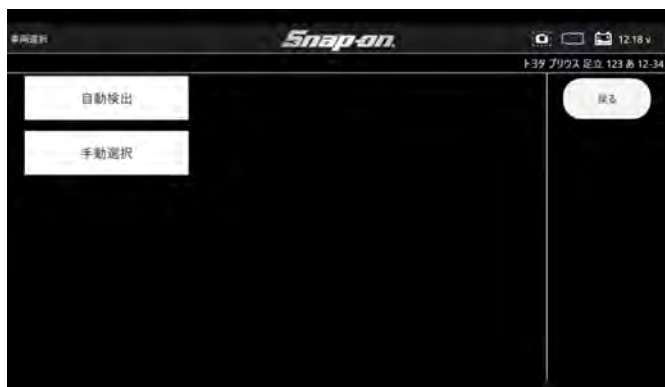
(1) 「診断」をタップします。



(2) 診断ソフトの名称が表示されます。



(3) オプションを選択してください。



(4) 診断ソフトのメインメニューが表示されます。



### ● 5-3-2 自動遷移削除

車両情報登録後に一度診断を行うと、診断メーカーや車種などの情報が車両情報に関連付けられ、2回目からの診断時には選択することなく診断ソフトのメインメニューまで遷移します。本機能では関連付けされた遷移情報を削除できます。

### ● 5-3-3 診断ソフトのメインメニュー機能説明

各診断ソフトのメインメニューからは以下の機能が行えます。

①	<b>診断</b>	各システムの故障コードの読取、消去を行います。
②	<b>カスタマイズ</b>	シートベルト音のON/OFF設定など設定変更を行います。
③	<b>作業サポート</b>	ブレーキオイルのエア抜きや整備モード移行など学習や初期化などを行います。
④	<b>アクティブテスト</b>	電動ファン駆動やパワーバランステストなどの機能のテストを行います。
⑤	<b>グローバルOBDII</b>	グローバルOBDII ソフトでの診断やデータモニタなどを行います。
⑥	<b>レディネステスト</b>	排出ガス対策装置関係の故障コードの検知を行います。



## 5-4 故障コードの読取

(1) メインメニューから「診断」を選択します。



(2) システム選択画面が表示されます。

下記表を参考に選択項目を決定してください。



①	<b>個別システム</b>	系統別に区分された項目から個別にアクセスできます。
②	<b>全自己診断</b>	対応しているすべてのシステムの故障コードの有無を自動で検出できます

### ● 5-4-1 個別システムを選択した場合

故障コードの読取・消去、またはデータモニタを行いたいシステムを系統別一覧から選択します。

(1) システム選択画面から「個別システム」を選択します。



(2) システム選択画面から診断したいシステムを選択します。



(3) 選択したシステムの診断メニューが表示されます。

「故障コードの読取」を選択します。



(4) 読取結果が表示されます。

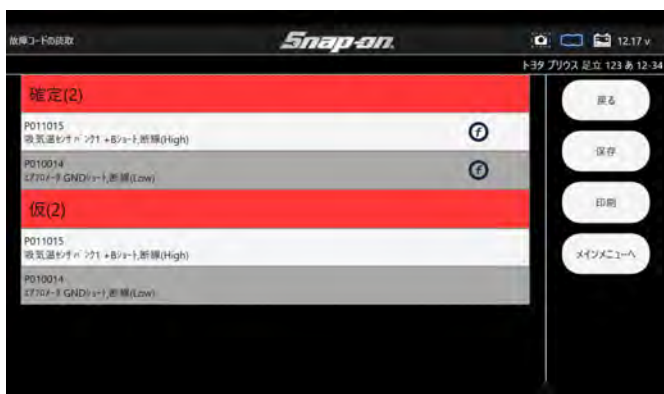
① 故障コードが記憶されていない場合



② 故障コードが記憶されている場合

分類された各欄をタップすると故障コードが表示されます。





- ・診断されたメーカーにより故障コードの分類は異なります。
- ・仮コードとは故障コードと確定される前の一時的な故障コードです。

#### ● 5-4-2 全自己診断を選択した場合

車両に搭載されている対応している全システムの故障コードの読取と消去を一括で行う項目です。

(1) システム選択画面から「全自己診断」を選択します。



(2) 各システムの故障コードの確認が開始されます。



(3) 診断結果が画面左上に表示されます。

詳細の確認は「診断結果」を選択します。



(4) 診断結果の一覧が表示されます。



(5) 故障コードを確認する場合は、確認するシステム名を選択します。



(6) 選択したシステムの診断メニューが表示されます。

「故障コードの読取」を選択します。



(7) 読取以降の手順は、14ページ (4) ~と同様です。

## 5-5 故障コードの消去

故障コードの消去は、以下のいずれかの方法で消去できます。

### ● 5-5-1 個別システムからの故障コード消去

(1) システム毎の診断メニューから「故障コードの消去」を選択します。



(2) 「故障コードの消去」画面が表示されます。

消去を行う場合は「実行」、中止する場合は「中止」を選択します。



(3) 「実行」を選択すると「自己診断の消去中」のメッセージが表示された後

消去完了画面が表示されます。



### ● 5-5-2 全自己診断からの故障コード消去

(1) 全自己診断後の画面から「全自己診断の消去」を選択します。



(2) 消去選択後の手順は「個別システムからの消去」手順と同様です。

消去が完了すると(1)の画面に戻ります。



・画面左上の診断結果は、全てのシステムの故障コードが消去された場合には「全システム異常なし」、されていない場合は「○システム異常あり!」が表示されます。

## 5-6 故障コードの保存

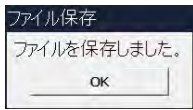
読取った故障コードは保存することができます。

### ● 5-6-1 個別システムからの故障コード保存

(1) 故障コード読取結果画面から「保存」を選択します。



(2) 「ファイル保存」ダイアログが表示されファイルが保存されます。



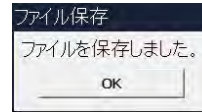
(3) 保存したファイルの閲覧方法については、24 ページを参照してください。

### ● 5-6-2 全自己診断からの故障コード保存

(1) 全自己診断実施後に表示される画面から「保存」を選択します。



(2) 「ファイル保存」ダイアログが表示されファイルが保存されます。



(3) 保存したファイルの閲覧方法については、24 ページを参照してください。

## 5-7 フリーズフレームデータ

### ● 5-7-1 故障コード読取画面からの確認

(1) システム毎の診断メニューから「フリーズフレーム」を選択します。



(2) フリーズフレームデータが保存されている故障コード一覧が表示されます。確認するフリーズフレームデータを選択します。



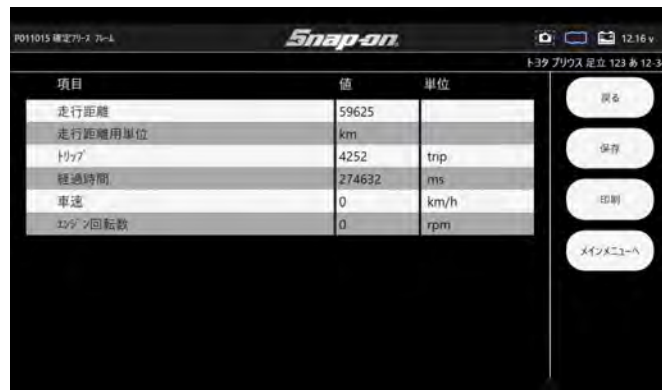
(3) 表示項目選択画面が表示されます。

表示項目の左端にあるチェックボックスをタップするとチェックのOFF/ONができます。(最初は全ての項目にチェックが入り選択されている状態です) 表示したい項目にチェックが入っていることを確認して「実行」を選択します。



・画面右のメニューから「すべて選択」「すべて解除」を選択することにより一括でチェックのOFF/ONができます。

(4) 「イニシャライズ中しばらくお待ち下さい」のメッセージが表示された後、フリーズフレームデータが表示されます。フリーズフレームデータを保存する場合は「保存」を選択します。



・複数の故障コードのフリーズフレームデータを保存する場合は、それぞれの故障コード毎に(2)~(4)の操作を行い保存する必要があります。

### ● 5-7-2 全自己診断 診断結果からの確認

(1) 診断メニュー画面で「フリーズフレーム」を選択します。



(2) 「フリーズフレーム」選択後以降の手順は

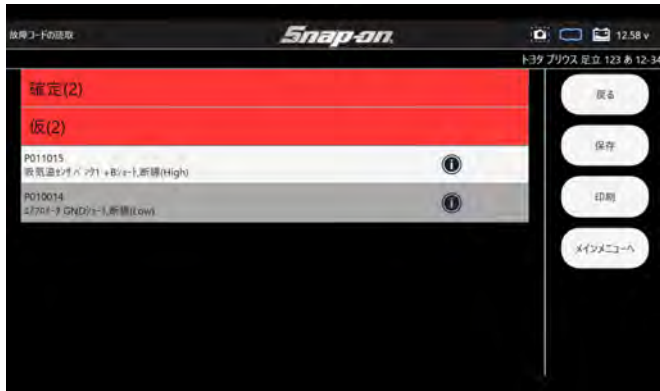
「5-7-1 故障コード読取画面からの確認」の(1)~(4)と同様です。



## 5-8 DTC ヘルプ機能

故障コード読取画面で「i」アイコンが表示されているコードについては推定故障箇所などの説明（ヘルプ）が表示されます。

- (1) 故障コード読取画面で故障コードの右端に「i」アイコンが表示されているコードを選択します。



- (2) 故障コード詳細画面にヘルプが表示されます。



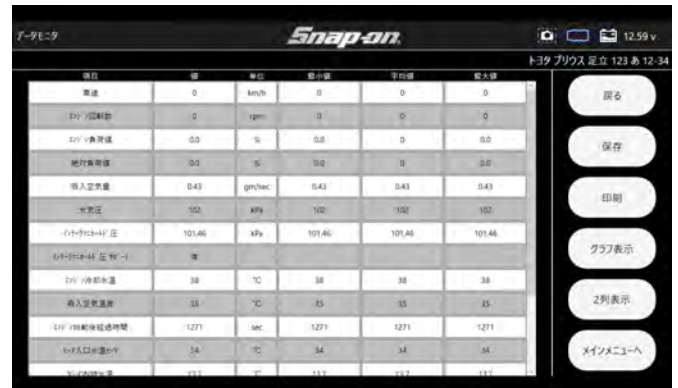
- (2) 表示項目選択画面が表示されます。

表示項目の左端にあるチェックボックスをタップするとチェックのOFF/ONができます。（最初は全ての項目にチェックが入り選択されている状態です）表示したい項目にチェックが入っていることを確認して「開始」を選択します。



- (3) 選択した表示項目のデータモニタが実行されます。

値は、「最大」「最小」「平均値」が表示されます。



## 5-9 データモニタ

各センサからECUへの入力値、ECU内の演算値やアクチュエータへの出力値などを数値またはグラフでリアルタイムに表示します。

- 5-9-1 データモニタの表示

- (1) 診断メニュー画面で「データモニタ」を選択します。

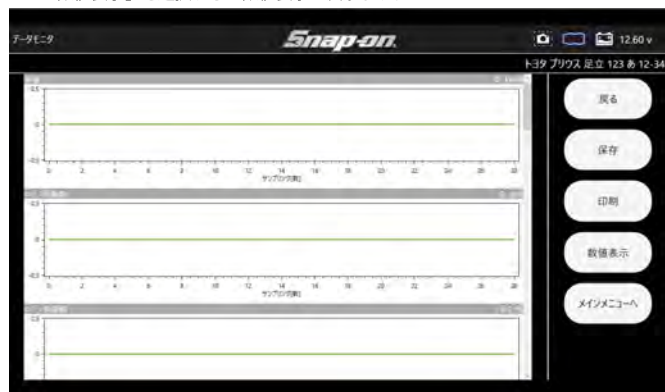


● 5-9-2 データモニタのグラフ表示

(1) データモニタ表示画面で「グラフ」を選択します。

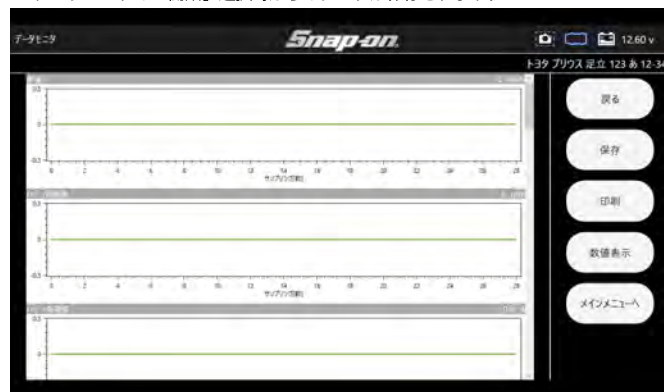


(2) データモニタ表示がグラフ表示に切り替わります。  
「数値表示」を選択すると数値表示に戻ります。

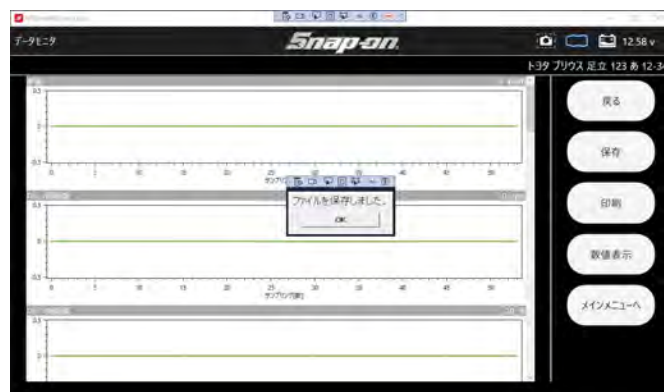


● 5-9-3 データモニタの保存

(1) データモニタ表示画面で「保存」を選択します。  
データモニタの「開始」選択時からのデータが保存されます。



(2) 「ファイル保存」ダイアログが表示されファイルが保存されます。



## 5-10 カスタマイズ

シートベルト警告音やリヤワイパー運動の ON/OFF など各システムの設定変更が行えます。

(1) ソフト毎のメインメニュー画面で「カスタマイズ」を選択します。



(2) 注意事項が表示されますので、確認して「同意する」を選択します。

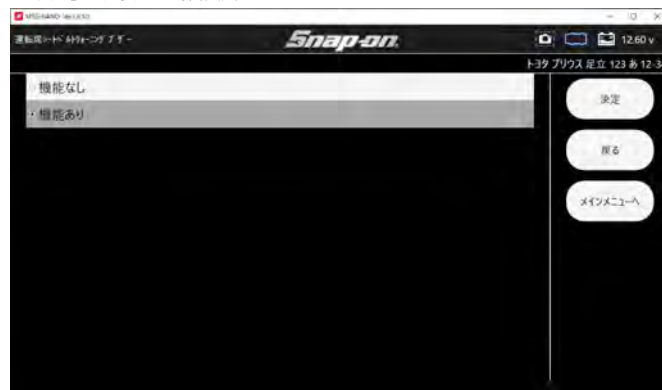


(3) カスタマイズシステム一覧が表示されます。カスタマイズを実行するシステムを選択します。



(4) 現在の設定が表示されます。

設定変更して「決定」を選択します。「戻る」を選択した場合変更されません。



(5) 設定が変更されました。



## 5-11 作業サポート

ブレーキフルードのエア抜きやハイブリッド車の整備モード移行など整備に関する項目や、部品交換時の学習や初期化など行います。

(1) ソフト毎のメインメニュー画面で「作業サポート」を選択します。



(2) 作業サポートシステム一覧が表示されます。  
作業サポートを実行するシステムを選択します。



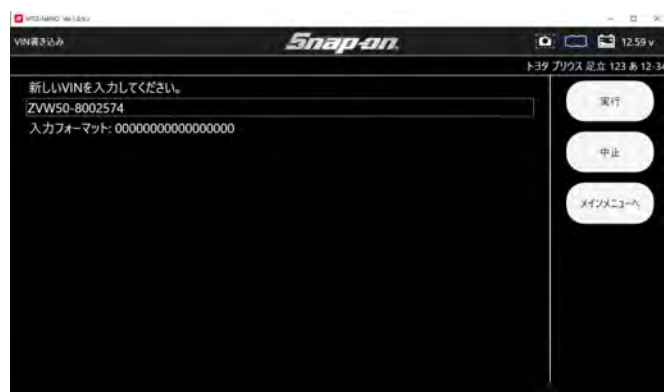
(3) 機能説明が表示されます。確認して「次へ」を選択します。



(4) 前提条件が表示されます。確認して「次へ」を選択します。



(5) 新しいVINを入力し、「実行」を選択します。



(6) 新しく入力したVINに変更されます。



## 5-12 アクティブテスト

リレーやモーターの ON/OFF、 シリンダーパワーバランステストなど車両 ECU へ指示を出し動作テストが行えます。

(1) ソフト毎のメインメニュー画面で 「アクティブテスト」 を選択します。



(2) アクティブテストシステム一覧が表示されます。

アクティブテストを実行するシステムを選択します。



(3) アクティブテスト項目一覧が表示されます。実行する項目を選択します。



(4) アクティブテストの詳細が表示されます。

「次へ」を選択します。



(5) アクティブテストの前提条件が表示されます。

「次へ」を選択します。



(6) 選択した表示項目のアクティブテストが実行されます。

値は、「最大」「最小」「平均値」が表示されます。



## 5-1-3 保存データ履歴表示と削除

履歴一覧から保存データの表示が行えます。

### ● 5-13-1 診断メニューから保存データ履歴を表示

(1) 診断メニューを開き、任意の保存データ履歴を選択します。



(2) 保存したデータが表示されます。

全自己診断の場合



個別システムの場合



### ● 5-13-2 保存データから保存データ履歴を表示

(1) 「車両診断」をタップします。



(2) 表示したい保存データの車両を選択し、任意保存データ履歴をタップします。



・保存データ履歴選択後以降は「5-13-1 診断メニューから保存データ履歴を表示」(2)と同様です。

● 5-13-3 診断メニューから保存データ履歴を削除

(1) 診断メニューを開き、「履歴削除」を選択します



(2) 削除するデータを選択してチェックを入れます。  
確認ダイアログが表示されますので、間違いなければ「OK」を選択します。



(3) 「選択した履歴を削除しました。」が表示されデータが削除されました。



・保存データの削除はメインメニュー画面の「保存データ」からも同様にできます。

5-14 I/F設定

I/F ボックスのブザー音のON/OFF 設定を行います。

(1) 診断メニュー画面から「I/F 設定」を選択します。



(2) ブザー音の設定画面が表示されます。

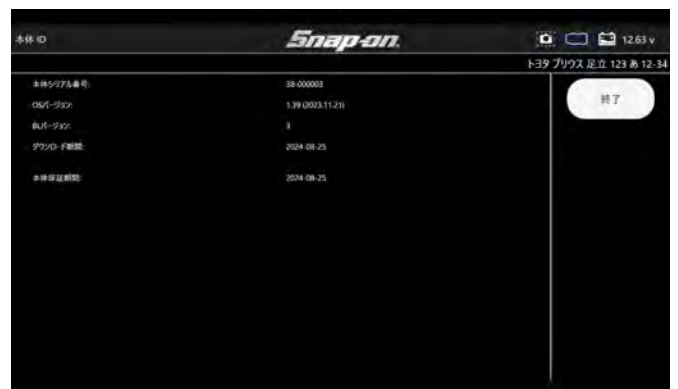


5-14 I/F情報

(1) 診断メニュー画面から「I/F 情報」を選択します。



(2) I/F の各情報が表示されます。



## 6. 特殊機能

各診断ソフトの作業サポート機能をまとめて、選択の手間を省略化した項目です。メンテナンスモード、DPF 再生機能、エーミングモードの実行が可能です。

### 6-1 特殊機能項目

(1)メインメニュー画面から「特殊機能」を選択します。



(2)特殊機能画面が表示されます。



①	<b>メンテナンスモード</b>	ブレーキフルードのエア抜きや、整備モード移行など日常点検に必要な作業サポート機能がまとめてあります。
②	<b>DPF</b>	国産トラックメーカーの DPF 再生関連の機能がまとめてあります。
③	<b>エーミング</b>	エーミング関連の機能がまとめてあります。
④	<b>コーディング</b>	コーディング機能を実行できます。
⑤	<b>J2534 モード</b>	J2534 モード機能を実行できます。

## 7. ユーザガイド

本体説明やソフト取扱説明などをまとめた項目です。

### 7-1 ユーザガイド項目

(1)メインメニュー画面から「ユーザガイド」を選択します。



(2)ユーザガイド画面が表示されます。



①	<b>ソフト取扱説明</b>	本マニュアルが表示されます。
②	<b>クイックマニュアル</b>	クイックスタートガイドです。
③	<b>外部リンク</b>	FAINESやメーカーごとの自動車リコール情報などがまとめてあります。
④	<b>整備士情報</b>	エーミングデータの情報などがまとめてあります。



## 8. ADAS CALIBRATION

全自己診断とエーミングを行います。  
エーミングの結果を証明書に反映します。

### 8-1 エーミング

#### ● 8-1-1 一回目の全自己診断

(1) メインメニュー画面から「ADAS CALIBRATION」を選択します。



(2) エーミングをしたい車両を選択します。



(3) 診断メニューから「エーミング開始」を選択します。



(4) 地域設定を選択します。



(5) 車両搭載システムの確認が開始します。



(6) DTC詳細を取得されます。



(7) 全自己診断の結果が表示されます。

「エラーミグへ」を選択します。



### ● 8-1-2 エーミング

※一回目の全自己診断の後にエーミングが開始されます。

(1) エーミングが開始されます。



(2) エーミングモードを選択します。



(3) エーミングモードの詳細を選択します。



(4) 選択したモードの条件が表示されます。

「はい」を選択します。



(5) 処理が実行されます。



### ● 8-1-3 二回目の全自己診断

※エーミング終了後、2回目の全自己診断が開始されます。

(1) 二回目の全自己診断終了後、車両検査証明書が表示されます。



## 8-2 エーミング証明書の編集

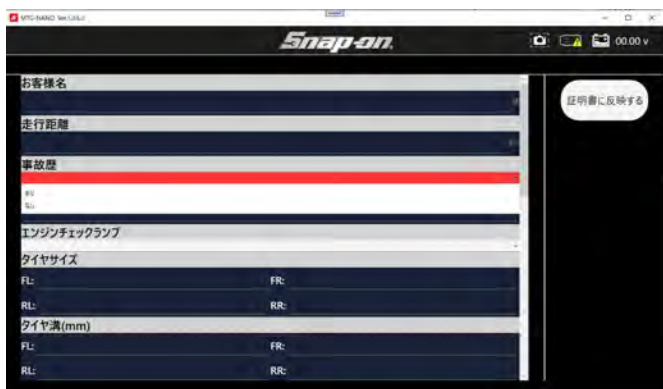
お客様名や走行距離など証明書に表示する情報を編集できます。

(1) 診断結果画面から「編集」を選択します。



(2) 編集したい情報を入力します

入力後「証明書に反映する」をタップします。



(3) 診断結果画面に戻ります。

編集した情報が証明書に反映しているか確認してください。



## 8-3 保存データ履歴表示と削除

● 8-3-1 ADAS車両情報選択から保存データ履歴を表示

(1) メインメニューから「ADAS」を選択します。

(2) 以降は「5-13 保存データ履歴表示と削除」の操作と同様です。

● 8-3-2 保存データ画面から保存データ履歴を表示

(1) 保存データから「ADAS」を選択します。

(2) 以降は「5-13 保存データ履歴表示と削除」の操作と同様です。

# 9. HV/PHV/EV

EVの診断を行います。

診断結果を証明書に反映します。

※現在、診断が行える車種がトヨタ・日産・三菱の一部のハイブリッド車種のみとなります。

今後のアップデートで様々な車種を対応予定です。

## 9-1 HV/PHV/EV

9-1 メインメニューから「HV/PHV/EV」を選択します。



(1) HV/PHV/EV診断をおこなう車両を選択します。  
「診断メニュー」をタップします。



(2) 診断メニューが表示されます。  
診断メニューから「EV」を選択します。



(3) 地域設定を選択してください。



(4) HV/PHV/EV診断が開始されます。



(5) 表示したい項目を選択します。

表示項目の左端にあるチェックボックスをタップするとチェックのOFF/ONができます。（最初は全ての項目にチェックが入り選択されている状態です）  
表示したい項目にチェックが入っていることを確認して「実行」を選択します。



- (6) 選択した項目に応じて、データモニタが表示されます。  
「保存」を選択します。



- (7) 保存完了ダイアログが表示されます。  
「OK」を選択します。



- (3) HV/PHV/EV証明書が表示されます。



### 9-3 保存データ履歴表示と削除

- 9-3-1 HV/PHV/EV 車両情報選択から保存データ履歴を表示
  - (1) メインメニューから「HV/PHV/EV」を選択します。
  - (2) 以降は「5-13 保存データ履歴表示と削除」の操作と同様です。
- 9-3-2 保存データ画面から保存データ履歴を表示
  - (1) 保存データから「HV/PHV/EV」を選択します。
  - (2) 以降は「5-13 保存データ履歴表示と削除」の操作と同様です。

### 9-2 証明書の作成

- (1) 診断メニューの保存データ履歴から、証明書を作成したい保存データを選択します。



- (2) 保存データが表示されます。  
「証明書作成」を選択します。



# 10. EDR

EDRの診断を行います。

## 10-1 EDR

10-1 メインメニューから「EDR」を選択します。



(1) EDR診断をおこなう車両を選択します。  
「診断メニュー」を選択します。



(2) 診断メニューが表示されます。  
診断メニューから「EDR」を選択します。



(3) EDR診断が開始されます。



(4) EDRの対象項目を選択します。



(5) 「イベントレコードデータ表示」を選択します。



(6) 重要事項の確認を行い問題がなければ「はい」を選択します。



(7) 「はい」を選択します。



(8) EDRの項目が表示されます。対象の項目を選択して下さい。



(9) 対象の項目を選択した場合に詳細の項目が表示されます。表示したい項目をさらに選択して下さい。



(10) 時間軸の項目が表示されます。対象の項目を選択して下さい。



(11) 時間軸項目を選択後にデータが表示されます。



# 11. 更新

アプリや診断ソフトウェアの更新を行います。

## 11-1 I/F の接続と更新

### 11-1 I/Fとアプリの更新

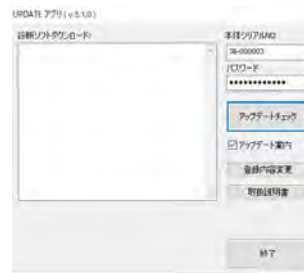
メインメニューから「更新」を選択します。



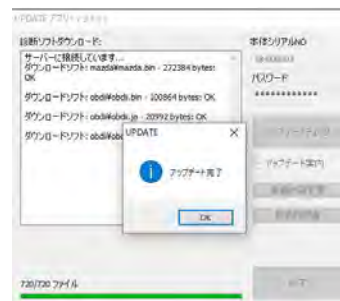
(3) I/Fのアップデートを行います。



(4) I/Fのアップデートで「アップデートチェック」を行ってください。



(5) I/Fのアップデート終了後は「OK」ボタン選択後に「終了」を選択して下さい。



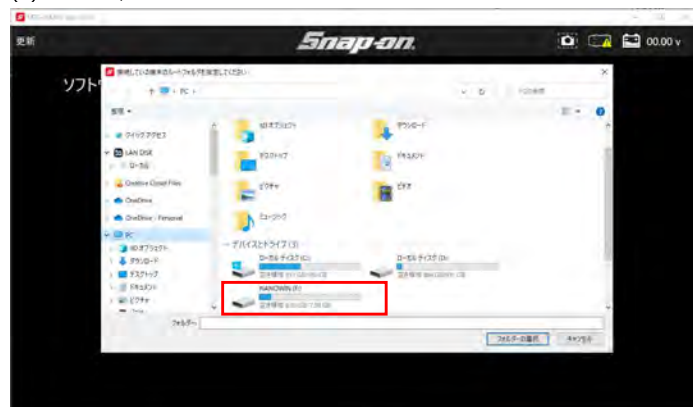
(6) アプリの更新確認で「YES」を選択して下さい。



(1) I/F を付属の USB Type C ケーブルとPCIに接続を行ったあとに、「OK」を選択します。



(2) 認識したI/Fのドライブを選択します。





- (11) 更新がある場合はインストール用のダイアログが表示されます。ダイアログに従い「次へ」又は「閉じる」を選択して下さい。



※メインアプリと更新アプリの両方にアップデートがある場合はインストールは2回実行されます。

- (9) アップデートが無い場合は下記画面が表示され、「OK」選択後にアプリが再起動しメインメニュー画面が表示されます。



## 保証

### 12-1 保障

保証期間：ユーザー登録から 5 年間

本体保証はインターフェースのみです。 ケーブルやその他付属品は保証対象外です。 また、タブレットの保証期間はユーザー登録から 1 年間です。

#### 保証規定

本製品は、お客様がインターネットを使用してユーザー登録した日を開始日として 12 ヶ月間にわたり、材料と製造上の欠陥に対し保証されています。但し、保証期間はインターネットを使用して、正しくユーザー登録されている場合にのみ有効です。

- ・ 保証対象は本体のみです。 ケーブルなどの付属品は保証対象外です。
- ・ 保証期間内に正常な使用状態での使用にて故障した場合は、無償修理いたします。
- ・ 火災、天災による故障の場合は保証対象外となります。
- ・ 本保証は、乱用、改造、あるいは意図された用途以外の目的に使用されたり、使用方法に関する取扱説明書に一致しない方法で使用されていたいかなる部品に対しても適用されません。これには本製品に使われているあらゆるネジの取り外しが含まれます。（ただし、それに限定されるものではありません）
- ・ 原則本製品は現品修理となります。修理期間中の貸出機などのご用意はございません。
- ・ お買い上げになりました本製品を修理のために送付しなければならない場合の往復運賃はお客様ご負担となります。

#### お問い合わせ先

エラーリングに関するお問い合わせ先、スキャンツールの不具合などのお問い合わせ先ましては、別途本部よりご案内させていただきます。ポータル配信をご確認下さい。